

神奈川県 伊勢原市



平成26年度
公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム

テーマ

地域人材による家庭支援

題名

専門家や地域の多様な人材を
活用した家庭教育支援の推進

伊勢原市教育委員会

1

神奈川県 伊勢原市



2

伊勢原市

人口:101,013人

(平成26年12月1日時点)

小学校:10校

中学校:4校

中央公民館:1館

地区公民館:6館



健康・文化都市 伊勢原



家庭教育を取り巻く現状

□社会状況の変化

- ・加速する核家族化
- ・近隣・地縁関係の希薄化
- ・子育てのモデルが身近にない……



- ◆子育て家庭の孤立化、家庭の教育力低下
- ◆学校における家庭教育支援の限界

○不登校、いじめ、不良行為、基本的な生活習慣が身につかない……

家庭教育における課題

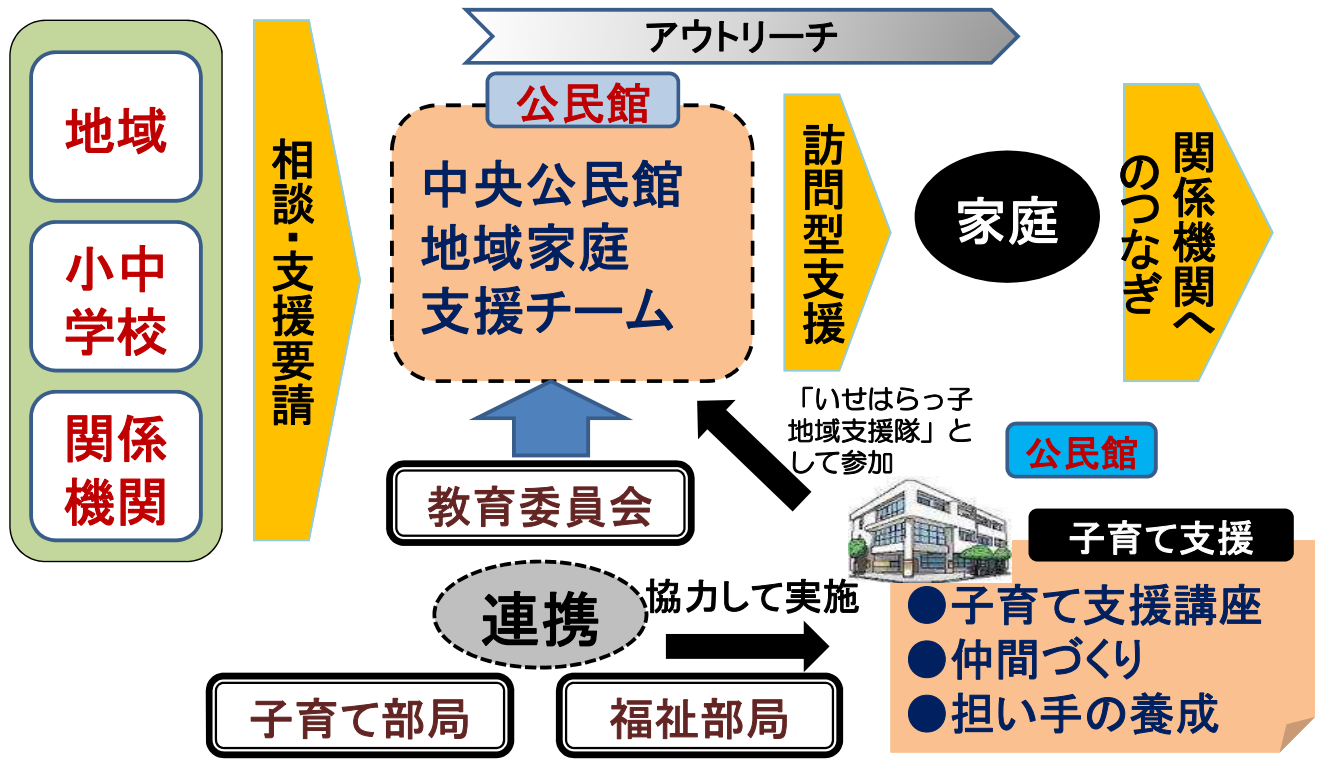
- ・子育てに不安や悩みを抱える保護者の増加
- ・支援が届きにくい家庭の増加とアプローチのあり方
- ・学校における家庭教育支援の限界
- ・教職員の心身の負担増による学校教育への影響
- ・保育園や幼稚園等へ入園しない(所属のない)子どもやその家庭への支援

課題への対応方法

- 1 アウトリーチ型の家庭支援
 - ・専門家や地域の人材の活用
 - ・チームでの対応
 - ・訪問型の積極的な支援

- 2 子育て支援講座の開催と支援の担い手養成
 - ・不適切な養育を予防する子育て支援
 - ・地域で持続的に子育て支援ができる担い手の養成

事業のスキーム



1

アウトリーチ型の家庭支援

いじめ、不登校、不良行為等、課題を抱える子どもに対し、保護者や家庭環境等、その子を取り巻く環境にアプローチして、問題を解決に導く。



- ソーシャルワーカー(SW)・元教職員・元警察官・民生委員児童委員をメンバーとするチームによる家庭支援
- 家庭訪問等の積極的なアプローチ
- 福祉的な視点を取り入れた支援
- ニーズにあった行政の窓口や警察、病院等、適切な機関へのつなぎ

9

2

子育て支援講座の開催と支援の担い手養成

子育てに不安や課題を抱える保護者への支援により、問題の未然防止と家庭の孤立化を防ぐ。
また、それらを担う人材を養成する。



- コモンセンス・ペアレンティング・トレーニング(CSP)をベースとした子育て支援講座の開催
- 保護者の課題に応じた子育て支援講座の開催
- 地域での仲間づくり、相談機会の提供
- 地域における支援の担い手となる「いせはらっ子地域支援隊」の養成と活用

10

中央公民館地域家庭支援チーム

- ・ SW 1人
- ・ 民生委員児童委員 2人
- ・ 元教職員 1人
- ・ 元警察官 1人
- ・ 教育委員会職員 2人

【1人:教職員

1人:コーディネーター(福祉、子育て支援担当部署経験者)】

特徴

コーディネーターが関係機関や関係課と連携・調整
SWが福祉・医療等サービスへのつなぎ

ケース会議：ケースごとの支援方法検討

定例会議：情報交換・共有、支援の進行管理等

支援の実施：家庭訪問、関係機関へのつなぎ等

平成25年度 地域家庭支援チーム 活動実績

- ・ 支援ケース：6件(不登校、養育・障害)
- ・ 家庭訪問：17回
- ・ 学校での個別対応：16回
- ・ ケース会議：13回
- ・ 定例会議：4回
- ・ 学校との意見交換会：4回

平成26年度 地域家庭支援チーム 活動実績(11月末)

- ・支援ケース : 6件(不登校、養育・障害)
- ・家庭訪問 : 19回
- ・学校での個別対応 : 17回
- ・ケース会議 : 5回
- ・医療機関受診同行等 : 5回
- ・定例会議 : 3回
- ・学校との意見交換会 : 1回

13

平成26年度 地域家庭支援チーム ステップアップ

◆未就学児とその保護者に対する家庭支援

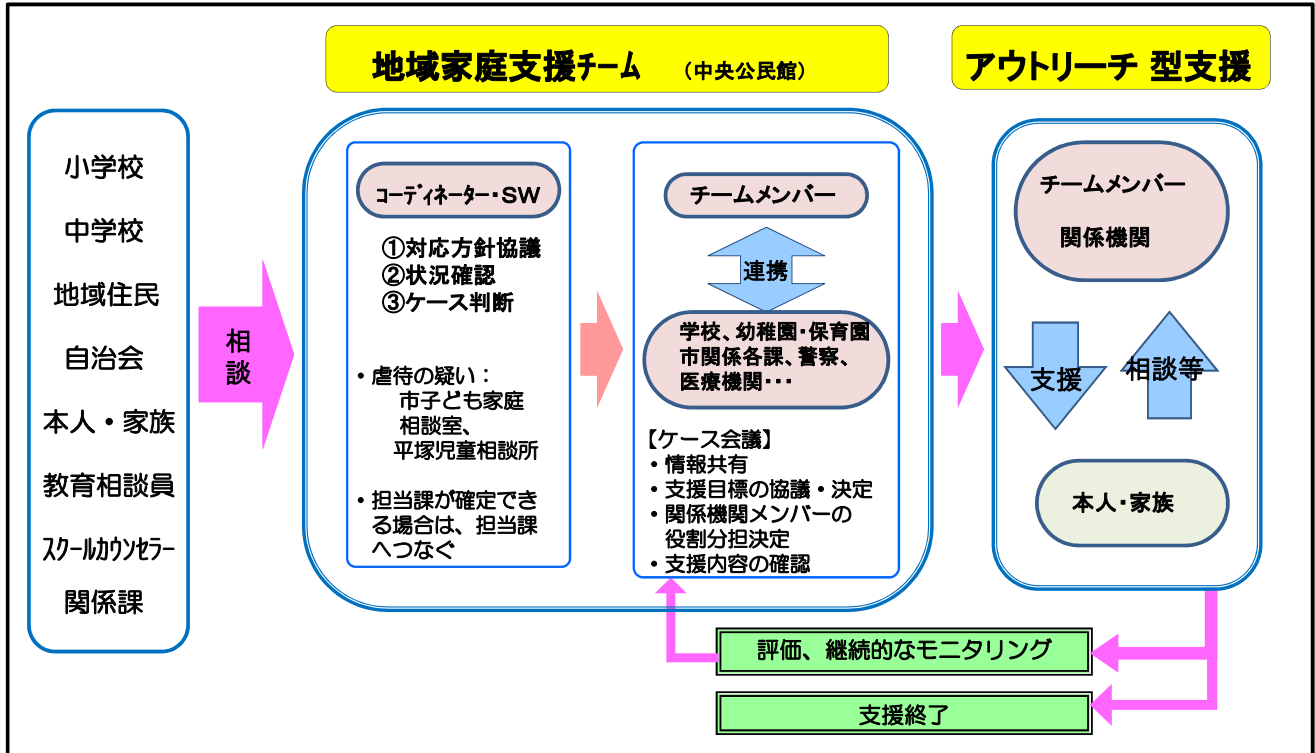
- ・子育て担当部局と連携し、問題を抱える家庭の把握
- ・保育園、幼稚園との連携

◆学校との連携強化、事業定着

- ・SWの役割や有用性、チーム支援の有効性の理解促進

14

アウトリーチ型支援の流れ



支援ケースについて...

・相談主訴

・支援内容 など



地域家庭支援チームの成果

- ◆アウトリーチ型の支援により、状態が改善
- ◆保護者が不安や悩みを相談
→不安・孤立感の軽減につながった
- ◆SWやチームメンバーの多様な視点と専門知識により、福祉的視点の支援展開が可能
- ◆地域人材の活用により、保護者への寄り添い役
- ◆学校との連携、協力体制が構築されつつある
- ◆教職員の負担軽減が図られた

17

地域家庭支援チームの課題

- ◆問題を抱える児童生徒に関して、学校からの情報発信が十分ではない
- ◆SWやコーディネーターの存在・役割について、学校の認識を深める必要がある

(◆困難ケースは、保護者、本人との信頼関係の構築に時間を要する)

18

平成27年度 地域家庭支援チーム 活動計画

- 事業実績を検証した上、必要に応じた支援区域の拡大
- チームメンバーの拡大と活用
- 支援の継続
- 学校との更なる信頼関係の構築
- SW、コーディネーターの役割、有用性についての理解の促進

19

おわり

ご静聴 ありがとうございました



伊勢原市公式イメージキャラクター
クルリン

20